



こころをつなぐまちづくり

人権シリーズ vol.131

シリーズ「同和問題」⑦ 『同和問題』解決に向けて

（同和对策審議会答申と同和对策事業、部落差別解消法）

1961(昭和36)年12月、時の内閣は同和对策審議会を設置し、「同和地区に関する社会的及び経済的諸問題を解決するための基本方針」について諮問しました。これに対して審議会は調査研究、実態調査や議論を重ねた末、1965(昭和40)年8月11日に答申を出しました。これが「同和对策審議会答申」(以下、同和对策答申)と呼ばれるものです。

同和对策答申は、同和問題を「最も深刻にして重大な社会問題」と定義し、部落差別を「市民的権利、自由の侵害」と断りました。同和地区住民が職業選択や教育の機会均等、居住・移転や結婚などの権利と自由が完全には保障されていない、差別された状態にあることを明らかにし、同和問題が「憲法で保障された基本的人権に関わる課題」であり、「早急な解決こそが国の責務であり、同時に国民的課題である」とを示しました。

さらに部落差別に対する「宿命論」や「寝た子を起すな論」を否定し、「心理的差別」と「実態的差別」が互いに補完しあっている再生産という悪循環を繰り返している事を看破しました。そして部落差別解決のために環境改善、社会福祉、産業・職業、教育問題、人権問題に関する具体的方策を示し、その実現のために特別措置法の制定などを求めました。

その結果、1969(昭和44)年から「同和对策事業特別措置法」が施行され、環境改善等の事業が着手されました。この事業は同和地区の環境改

善や福祉、教育の分野等に大きく貢献しました。特別措置法は、その後法律や事業の適用範囲を縮小しながらも時限立法で継続されて行きました。

1996(平成8)年5月に地域改善対策協議会から意見が出され(地対協意見具申)、周辺地域との較差はかなり解消されたため今後は一般対策を活用すること、世界的な人権意識の高まりの中でそれまでの同和啓発・啓発を人権啓発・啓発として再構築していくこと、同和問題を人権課題の重要な柱にすることなどが提起されました。そして2000(平成12)年12月に「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」が施行され、この法律によって人権教育・啓発推進の取り組みが実施されるようになりました。このようなか、33年間続いた特別措置法は2002(平成14)年3月末で廃止されました。

しかし、同和对策答申が具体的方策の中で求めた「差別に対する法的規制」や「人権侵害からの司法的な救済措置」については現在でも実現しておらず、各地で人権・同和啓発に関わる事業や取り組みが実施されてきましたが、部落差別は完全には解消していません。また、インターネット等の普及に伴って、それを悪用して部落差別を助長するような情報もネット上に飛び交うようになり、部落差別の状況も変化してきました。このため昨年12月に「部落差別の解消の推進に関する法律」(以下、部落差別解消法)が成立

し、公布・施行されました。

この法律は、全ての国民が基本的人権を享有するかけがえない個人として尊重されるという理念から、部落差別解消の必要性に対する国民全体の理解を促進して、部落差別のない社会を実現することを目指した法律です。そして国や地方の責務として、部落差別解消のための施策の推進、教育・啓発の実施、相談体制の充実、実態調査などについて規定しています。

同和对策答申も部落差別解消法も、部落差別のない社会の実現を国民全体で実現することを求めています。今後とも、同和問題解決への取り組みに対する皆さん一人ひとりのご理解とご協力をお願いいたします。

(文責：人権・同和对策課 河野)

第10回国東市隣保館まつり 「川の川柳」 課題《まつり》応募作品

おらが村 祭り終わりのくじを待つ
安岐町 小田原 賢 司
子どもらも太鼓で踊る楽祭り
武蔵町 糸 永 ケサヨ

市長室から「ごん」たちは

市長日記

春は名のみの

昨日、今日と春の陽光は明るく充ちているのに、風はまだまだ冷たいですね。朝のウォーキングをしながら「春は名のみの風の寒さや」と「早春賦」の一節を口ずさむ気分です。

ところで、この歌「早春賦」は白杵市出身で、明治から大正期の作詞家「吉丸一昌」の作詞だそうで、小学校何年生の頃だったか学校唱歌で教わったと思うのですが、文語調の歌詞は、今読んでも難解ですね。子供の頃は意味がほとんど分からずに歌っていました。

特に二番と三番の「氷解け去り葦は角ぐむ さては時ぞと思ふあやにく 今日もきのうも雪の空 今日もきのうも雪の空」春と聞かねば知らずでありしを 聞けば急かせる胸の思いを いかによよとのこの頃か ほとんどの意味が分かりませんでし

国東市長 三河 明史



中学生になった頃だと思ふのが、「葦が角ぐむ」とは、「春になり、葦の芽が枯れた葦の間から伸び始めて、丁度鹿の角が春になって伸び始めて、角を包んでいた皮を破り出て、角を包んでいた皮を破り出て」と言う様(状態)を言ったのだと聞いて、なるほど、昔の人の学識と表現力は、すごいなあと感じました。とを覚えていきます。

この歌に限らず、文語調の詞は難しいけれども格調が高く、私は好きです。島崎藤村も好きですが、カールブッセやヴェルレーヌなど西洋の詩も上田敏(詩人)や鈴木木信太郎(フランス文学者)などの格調高い名訳があつて、初めて日本人に親しまれたのだと思います。

昔覚えて口ずさんだこれらの詩が少しばかり頭の片隅に残っています。古い詩集を引っ張り出して久しぶりに読んでみましょうか。

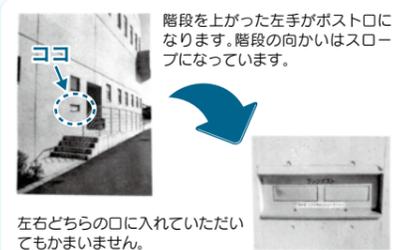
図書館だより どくしょがいちばん!

ブックポストのご案内

市内の各図書館には、閉館時でも本を返却できる「ブックポスト」があります。返却本を入れていただければ、職員が後ほど回収、確認します。うっかり休館日に来てしまったとき、忙しくて館内まで足を運べないときなどに、ぜひご利用ください!

※ブックポストで返却できるのは本のみになります。DVD、CD、ビデオ、紙芝居はポストに入れる際に破損してしまうことがあるため、カウンターでご返却ください。

問合せ先	
国見図書館	☎0978-82-1585
くにさき図書館	☎0978-72-3500
武蔵図書館	☎0978-69-0946
安岐図書館	☎0978-67-3551



▲くにさき図書館のブックポストは、アストくにさきの裏手にあります。詳しい場所は図書館員にお尋ねください。

司書のオススメ 『刀装具ワンダーランド』 川見 典久/著 創元社

最近、名刀の展示が注目を集めたり、「刀剣女子」なんて言葉が登場したり、日本刀の人気が急上昇中。一方この本の主役は「刀装具」。江戸時代以降の刀装具の名品を、フルカラーの拡大写真でじっくり見ることができます。優れた彫金や蒔絵(まきえ)の技術による豪華さ、美しさはまさに圧巻です。中には可愛いものや、くすっと笑えるシャレが込められた作品も。パラパラめくるだけでも十分楽しい一冊なので、専門知識がなくても手軽に読むことができます。職人たちが作りあげた武士の美の結晶を、ぜひ堪能あれ!

図書館に寄つちよくれ Q. 認知症の母との日々を温かく描いたシリーズ「ペコロスの母に会いに行く」。この作品の舞台はどこ? 答えは図書館で!